慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

| Title | ドイツ三月革命における労働者階級の役割: カール・オーベルマン「一八四八年の革命におけるドイツ労働者」を読んで |
|------------------|---|
| Sub Title | The rôle of the German working-class in the March revolution of 1848 : treating of "Die deutschen Arbeiter in der Revolution von 1848", von Karl Obermann |
| Author | 飯田, 鼎 |
| Publisher | 慶應義塾経済学会 |
| Publication year | 1958 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.51, No.6 (1958. 6) ,p.519(59)- 534(74) |
| JaLC DOI | 10.14991/001.19580601-0059 |
| Abstract | |
| Notes | 資料 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19580601-0059 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

| _ | | | | | | | 3 11 1 3/11 |
|-----|---------|---------|---------|----|--------|------------------|-------------|
| | ·29 年 | 30 年 | 31 年 | | 29 年 | 30 年 | 31 年 |
| 1 | 496,600 | 496,900 | 545,880 | 1 | 43,107 | 42,270 | 42,348 |
| 2 | 375,500 | 353,900 | 374,040 | 2 | 33,661 | 31,944 | 32,633 |
| 3 | 318,800 | 283,300 | 302,900 | 3 | 22,695 | 21,170 | 21,274 |
| 4 | 144,500 | 155,300 | 166,100 | 4 | 11,452 | 10,184 | 10,548 |
| 5 | 128,450 | 132,100 | 144,300 | 5 | 10,669 | 9,221 | 9,197 |
| 6 | 140,222 | 130,247 | 138,684 | 6 | 10,414 | 10,032 | 10,692 |
| 7 | 130,600 | 120,100 | 145,000 | 7 | 11,597 | 11,491 | 12,628 |
| 8 | 84,250 | 115,000 | 121,300 | 8 | 7,978 | 9,059 | 8,938 |
| 9 | 115,408 | 104,700 | 109,579 | 9 | 9,286 | 8,411 | 8,488 |
| 0 | 90,850 | 84,600 | 88,400 | 10 | 8,072 | 7,120 | 7,012 |
| 1 | 96,100 | 95,700 | 93,926 | 11 | 7,815 | 7,694 | 8,707 |
| 2 | 84,500 | 77,200 | 84,700 | 12 | 6,219 | 5,538 | 5,721 |
| 3 · | 58,500 | 63,000 | 70,000 | 13 | 4,699 | 4,061 | 5,893 |
| 4 | 54,100 | 62,200 | 63,800 | 14 | 6,090 | 5,732 | 6,066 |
| 5 | 60,300 | 60,700 | 56,900 | 15 | 5,544 | 4,833 | 4,793 |
| 6. | 35,600 | 40,400 | 39,500 | 16 | 3,732 | 3,261 | 3,355 |
| 7 | 32,510 | 30,600 | 40,500 | 17 | 3,503 | 3,269 | 3,131 |
| 8 | 17,918 | 19,600 | 25,024 | 18 | 1,650 | 1,651 | 1,800 |
| | | | | | | 4. 13 May 2 12 1 | |

各年9月(実働労務者+臨時夫+請負夫)(通産省請

企業別機械装置評価額(単位千円)

〔後記〕 29 年 30 年 31 年 3,184,452 2,812,958 3,360,198 3,686,107 2 3,285,013 3,572,637 3 1,766,083 2,076,040 2,141,784 1,146,872 1,120,119 1,036,095 5 930,488 954,918 1,019,447 6 795,502 7 1,021,554 992,234 8 1,491,619 1,550,003 1,371,648

9 901,401 846,851 790,577 10 1,729,760 1,716,351 1,826,023 11 823,487 903,814 436,986 567,752 12 603,822 621,795 13 476,990 358,085 489,434 14 521,107 460,864 15

Ti. 八

立

八

107,592

各年9月末

486,650

270,080

113,780

543,542

300,314

120,220

企業別粗出炭量 (単位トン)

2

多くの資料に関して常に最大の便宜を取り計らって下さり、

通商産業大臣官房調査統計部

且つ有意義な御指

好意に接して深く感謝する次第である。

同作業によるも

同氏に先立っ 計測結果は、

て本誌に発表させて頂く

る生産函数

大学院岩田

院一氏と

の協

16

17

18

各年9月(通産省調)

端となれば幸いである。

石炭統計調査室広田江二氏である。本稿が氏の御好意に応える一

見学の機会を与えて下さった常磐炭礦株式会社に深甚の謝意を表

生産の技術条件及び自然条件について、

長期間にわたる実地

17 18

ッ 命 13 お 3 労働者階級 0) 役割

1

ベルマン「一八四八年の革命におけるドイツ労働者」

Obermann; Die deutsche ₽. der Rovolution von 1848, 1953)

田

鼎

れた一人の思想家の悲痛な叫び以上のものをもっている。世界にお 歴史は、解きがたい謎と不幸な方向転換に富んでいる」。この言葉は、 は当然といえよう。 者階級の運動をめぐって、多くの研究 充分である。このような視角から、戦後のドイツ民主共和国におい かの第三帝国の一二年間における奇怪な体験を通じて胸に刻みこま の力作「ドイツ革命史序説 **義や社会民主党の裏切りを指摘するだけでは説明としてはなはだ不** もっとも古い歴史を誇った社会民主主義政党と最も強い共産 体制の崩壊とヒットラーの登場前後における労働 の軍門に下ったか。その理由は共産党のセクト主 わが国においては、この時期を主題とした研究 革命におけるエリ ほとんどみるべき組織的抵抗もな や資料が公刊されてい

だけで充分であろう。われわれはいま、これらのゆたかな研究活動 多彩であることは、 の成果について、充分な認識をもっているということを、 最近におけるドイツ社会運動史の研究が、 ドイツで出版される書籍のカタログを一瞥する 研究の大体の傾向につい まことにおどろくほど てはうかが 確信をも

マイネッケの言葉をかりるならば、 「ドイツの

ツ三月革命における労働者階級の役割

三月革命の経過と労働者階級の役割

三月革命以前のド

イッ社会運動

十九世紀初頭

(岩波書店昭和三一年) などが代表的なものとしてあげられよう。

ラ・ツェトキン、あるいはフランツ・メーリング等の著作集や演説ネヒトやローザ・ルクセンブルク、エルンスト・テールマンやクラ を裏づけている。 集、そしてその追憶や伝記書が、盛んに出版されているのは、これ 北をとげたのだが、この深刻な体験に教訓をえて、革命的な運動に 社会主義運動は、まれに見る革命的昻揚とこの上もないみじめな敗 動史のみならず、社会思想史や政治史の研究者にとっても、見逃す いう点も、最近の研究方向を示すものであろう。カール・リープク おける政治的指導の点に、関心がむけられている。その 結 果 と し ことのできない好題目であろう。この激動の三〇年間に、ドイツの 一九一四年から一九四五年までのドイツ現代史は、たんに社会運 この時期における革命的な指導者の役割をいかに評価するかと

るドイツ労働者」、おなじくオーベルマンの「共産主義同盟の歴史」こにとりあげたカール・オーベルマンの「一八四八年の革命におけ えば、ゲルハルト・シルファートの「ドイツ三月革命の研究」や、こ これについていくつかのすぐれた研究に接することができた。 的な制約の帰結でもあった。かくしてブルジョア革命として一八四 主義革命がきわめて不徹底な形でしか行われなかったという歴史 八年の革命が注目されることはいうまでもない。われわれは最近、 しかしながら、ドイツにおける民主主義と社会主義のための闘争 敗北に終ったという事実は、この国においてブルジョア民主

> 写していることはいうまでもない。 にマルクスおよびエンゲルスが、烱眼をもってこの革命の推移を描 ツにおける影響、民主的選挙権闘争の勝利と敗北については、 などをあげることができよう。 フランスにおこった二月革命のドイ

著作は、普通平等選挙制度施行のための人民大衆の努力を根本的に des deutschen Burgertums,1949.) などがあげられる。しかしなが tion von 1848, 1948.)、ウィルヘルム・モンムゼンの「ドイツ市民階級 Stadelmann; Soziale und politische Geschichte der Revolu-デルマンの「一八四八年の革命の社会および政治史」〈Rudolf 通平等選挙権を主張したというような誤った見解がしばしば述べら は討究しないままでいたのであるから、ブルジョア自由主義者が普 作は、多かれ少なかれこの意義深い事態を見逃している。これらの ら、これらの研究に共通して見られる欠陥は、三月革命の過程にお の能力とその限界」(Wilhelm Mommsen; Grösse und Versagen Revolution 1848-1849, 1930)、 また最近ではルドルフ・シュター これについてシルファートはつぎのようにのべている。「これらの労 て、労働者階級の果した役割が、正しく評価されていない点である。 1848-1849, 1849)、ヴァレンティンの「一八四八年 究をもっている。たとえばハンス・ブルムの「一八四八年—一八四 イツ革命の歴史」(Veit Valentine; Geschichte der deutschen 九年のドイツ革命」(Hans Blum; Die deutsche Revolution ドイツにおける三月革命について、従来われわれはいくつかの研 一八四九年のド

いる。 と。 と。 問題にかんするかぎり、労働者、とくにそのもっとも進歩的な分子 いてはつぎのように。評価している。「オーベルマンの著作は、この れたことは、おどろくにたりない」と。そして、オーベルマンにつ 民主的選挙制度の獲得運動に決定的な寄与をしたことを示して

において、新たな課題としてとり上げられつつあるとすれば、それ のような意義を認め、できるだけ詳細に論評を試みようとするもの つとはいえないだろうか。筆者は、オーベルマンのこの業績に以上 は、最近のドイツ社会運動史の研究傾向のいちじるしい特徴のひと 一八四八年のドイツ三月革命の研究が、現在、ドイツ民主共和国

Friedrich Meinecke; フリードリッヒ・マイネッケードイツの悲劇ー 」矢田俊隆訳、弘文堂、序言。 Die deutsche Katastrophe-考察と回

Betrachtungen und Erinnerungen, 1946. 岩波講座「現代思想」第五巻「反動の思想」二七。

Zetkin, ein Lebensbild. Irma Thälmann; Erinnerungen ner; Rosa Ruxemburg, 1952, Luise Dornemann; Clara knecht, der Freund und Lehrer der Jugend, 1949. Elss-うなものである。まず伝記的なものは、W. Pieck; Karl Lieb **寡聞な筆者が最近入手したもののうち、主なものは左のよ**

> Hindenburgs, 1957. 1955. Erick Eyck; Geschichte der Weimarer Republik, D. Bracher; Die Auflösung der Weimarer Republik, schichte der deutschen Arbeiterbewegung. 2 Bde. Karl land. 2 Bde. Dokumente und Materialien ersten Russian Revolution von 1905-1907 auf und Analyse, 1957. Leo Stein; Die Auswirkungen der krieges und die deutsche Sozialdemokratie, Chronik Jürgen Kucynski; Der Ausbruch des ersten Weltensein Weg zum Marxismus, 1869-1891, 1956. ほとじある。 an meinen Vater, 1955. Thomas Höhle; Franz Mehring Vom Zusammenbruch des Kaisertums bis zur Wahl また資料は厖大なものが数々刊行され枚挙にいとまがない。 Deutsch-

3 業績のほかに、 猪木正道「ドイツ共産党史」(弘文堂、 部的な研究である。また故河合栄治郎教授の「独逸社会民主党 史論」は興味深いが、体系的なものとはいえない。 どがあるが、いずれもファシズムを対象としたものであり、局 六年)、吉村励「ドイッ革命運動史」(青木書店、昭和二八年)な 五年)、小此木真三郎「ファシズムの誕生」(青木書店、昭和二 わが国におけるドイツ社会運動史もしくは労働運動史の研 未だ未開拓といっても過言ではない。村瀬・篠原両氏の

Gerhard Schilfert; Sieg und Niederlage des domo

イツ三月革命における労働者階級の役割

六一(五二一)

kratischen Wahlrechts in der deutschen Revolution 1848-49, 1952.

二郎、伊東勉共訳、日本評論新社。ゲルハルト・シルファート『ドイツ三月革命の研究』上杉重

- ه) Karl Obermann; Zur Geschichte des Bundes der Kommunisten 1849 bis 1852.
- 第四巻所収「革命と反革命」 第四巻所収「革命と反革命」
- (8) シルファート、前掲訳書、二―三頁。

__

か、オーベルマンの主張を要約しながらのべてみよう。世紀初頭のドイツが、どのような社会的経済的背景のもとにあった一八四八年のドイツ革命がはじまる以前のドイツすなわち、十九

とを承認しなければならなかった。」(S. 6)ゾンバルトをまつまでその政治的過程の正しい処理のための前提である。ブルジョア的な経済史家は、十九世紀最初の三分の一期——すなわち関税同盟の締経済史家は、十九世紀最初の三分の一期——すなわち関税同盟の締経済史家は、十九世紀最初の三分の一期——すなわち関税同盟の締経済といればならながった。」(S. 6)ゾンバルトをまつまで、その政治的過程の正しい処理のための前提である。ブルジョア的などを承認しなければならなかった。」(S. 6)ゾンバルトをまつまで

もなく、十九世紀初頭におけるドイツ経済の分裂状態は、政治的には、ドイツが相反する傾向と気まぐれとをもつ三六人の王侯のあいたにでたらめに分割されていたこと、すなわち大小さまざまの独立の王国、公国、大公国、自由都市から成りたっていたことの反映ににとって耐えがたい桎梏として作用し、貴族支配の強化、封建的土にとって耐えがたい桎梏として作用し、貴族支配の強化、封建的土にとって耐えがたい桎梏として作用し、貴族支配の強化、封建的土にとって耐えがたい桎梏として作用し、貴族支配の強化、対建的上人の利益を得る代償として、政治上は依然ユンカーの下僕たるに甘上の利益を得る代償として、政治上は依然ユンカーの下僕たるに甘上の利益を得る代償として、政治上は依然ユンカーの下僕たるに甘上の利益を得る代償として、政治上は依然ユンカーの下僕たるに甘んじたことを特徴としていた」のである。

ぎのように書いた。は、エルベ河以東の土地貴族にはげしい憎しみと侮蔑をこめて、つための要求が強まってきた。開明的な貴族的改革者シュタイン男爵しかし、資本主義の発展とともに、国民的な単一経済圏の創出の

せん。私の願いはドイツがその自主、独立、国民性をふたたびかそして私は古い国制にしたがえばただこのドイツに属し、ドイツのいかなる特殊な一部に属するものでもないので、また心のすべのかなる特殊な一部に属するものでもないので、また心のすべいがなる特殊な一部に属するものでもないので、また心のすべいがなる特殊な一部に属するものでもないので、また心のすべいがなるはない。それはドイツです。

りません」。

発展は、まことに遅々たるものであり、その状態は実にみじめであ 三四二〇〇平方キロメートルの面積と二三〇〇万の人口を有する地 glied)をなしていたといわれる (S.9)。商人もしくは工場主のため った。「ドイツの 労働者階級の社会的政治的発達が イギリスやフラ に特筆されなければならない。しかし、ドイツにおける資本主義の たのであった。従って関税同盟の成立によって、一八州、すなわち るとともに独立小生産者であった。商人にたいする実質的な従属化 に働いていた労働者は、手工業の親方(Handwerksmeister)であ 義的生産の型は、手工業と機械制大工業との中間的型態(Zwischen-て資本主義的大工場制度は例外的で、当時のドイツにおける資本主 をいとなみ、封建的な束縛が根強かった。従って一八四八年までのド と没落の過程を通じて、手工業親方のなかから賃金労働者が生まれ イツ工業は、手工業に基礎をおく小規模生産が支配的であった。そし て資本主義的発展への途をはばまれ、各地域がいずれも固有の経済 経済的に四分五裂の状態にあったドイツ連邦は、関税障壁によっ ひとつの経済圏となったことは、ドイツの資本主義発展史上

大学園者階級におくれていることは、ドイツのブルジョアジーンスの労働者階級におくれていることは、ドイツのブルジョアジーよりおくれているのと同様がイギリスやフランスのブルジョアジーよりおくれているのと同様がイギリスやフランスのブルジョアジーよりおくれているのと同様がイギリスやフランスのブルジョアジーよりおくれているのと同様がイギリスやフランスのブルジョアジーよりおくれているのと同様がイギリスやフランスのブルジョアジーよりおくれているのと同様がイギリスやフランスのブルジョアジーとある。

| 合 | マニ | 家 | 企 / |
|---------------|---------|-----------------|-------|
| | ユファクチュア | 内 | 型/労働者 |
| | クチ | I, | 機よ |
| 計 | э 7 | 業* | が数 |
| 八 <u></u> | ,4111 | 五八五、八一 | 織 |
| 11011 | 兲 | 八三三 | 椶 |
| 1,0 | = | + | 労 |
| 0.00,010 | 三五、 | 七五四、 | 働 |
| | 量 | 皇 | 者 |
| と業でな生 | 〇〇、〇〇 | 八の公数 | 備 |
| る活 。 して | 〇ち、人約 | 一よ 二れ | 考 |
| | が四、機〇 | | |

親方、技術工その他……四五七、三六五また一八四六年の終りのプロイセンにおいては、

徒弟および見習………三八四、七八三

(Gehilfen und Lehringe)

そしてこの八四二、一四八人のうち、五五一、二四四人がマニュフ計………八四二、一四八

六三(五二三)

イツ三月革命における労働者階級の役割

うであった。 Fabriken)で働いていたといわれるが、 そのうちわけはつぎのよっクチュアおよび工場(Werk-stätten der Mamufakturen und

| <u> </u> | تستست | | , |
|--------------|--------|------|-----------|
| 製 | 金 | 織 | 産 / |
| 粉 | 属 | 物 | の / |
| 120 | エ | 10 | 類/ 働者 |
| 業 | 業 | 業 | /工及 場び |
| T i. | _ | ,二六九 | 労 |
| 七、 | 00, | 九 | 働 |
| 七五八 | 九六六 | 三三八 | 者 |
| | | | 1 |
| 出七、 | - 二六、 | = | |
| 八六〇 | 九 九 | 七二八 | 場 |
| 0 | = | 八 | |
| | | | の一労工 |
| 14. 14. 1 | | 0 | 慟場 |
| = | 人 | 000 | 者当数り |
| 人 | | | 「奴ソ |

体が零細企業であったことがうかがい知られる。これをみてもわかるように、織物業以外の工場の規模は小さく、大

当時、資本主義発展の道標ともいうべき製鉄業は、まだその黎明当時、資本主義発展の道標ともいうべき製鉄業は、まだその黎明当時、資本主義発展の道標ともいうべき製鉄業は、まだその黎明当時、資本主義発展の道標ともいうべき製鉄業は、まだその黎明当時、資本主義発展の道標ともいうべき製鉄業は、まだその黎明当時、資本主義発展の道標ともいうべき製鉄業は、まだその黎明当時、資本主義発展の道標ともいうべき製鉄業は、まだその黎明

○~五〇、○○○人が工場労働者および賃金労働者(Tagelöhner)○、○○○人から四○○、○○○人に増加し、そのうち四○、○○一方、ベルリンの人口は、一八一五年から一八四七年までに一八

者の全体的な収奪過程の基礎、つまり本源的蓄積ないし産業発展の 紡績工場のほかに、九五の織物工場、二二のキャラコ捺染工場、三五 ほか二〇、〇〇〇人の手工業の徒弟(Handwerkslehringe)がい ブルジョアジーのためではなく、 基礎を形成したのだが、ドイツにおいては、大体においてそれは、 こったことは注目されなければ ならない。「農業生産者の生産手段 の数が非常に増加するという、イギリスなどとは正反対の現象がお でいた。そして一七八五年から一八四八年までの間に、家内労働者 および毛織物業に従事していた。彼等は年間六三、〇〇〇、〇〇〇 本家的企業に雇用され、そのうち一五〇、〇〇〇人がリンネル、絹 めていた事実である。一七八五年、一六五、〇〇〇人の労働者が資 の支柱は、鉄鋼業よりは軽工業とくにリンネルおよび毛織物業であ の絹織物工場が見られたが、劣悪な労働条件に喘いでいた(S. 15)。 は工場の数も三三と三倍になった。ベルリンの繊維産業は、三三の た。工場労働者の数は至って少なく、一八四三年一一の機械制工場 もしくは商店の店員《Kaufmannslehringe》であった。またその からの遊離の過程は、たとえばイングランドにおいては、商品生産 これらの労働者の多くは、問屋制家内工業の劣悪な労働条件に悩ん マルクから九一、〇〇〇、〇〇〇マルクの商品を生産していたが、 った。しかも重要なことは、そのなかで家内工業が重要な地位をし これを要するに、十九世紀初頭から一八四八年以前のドイツ経済 〇〇〇人の労働者がいたにすぎなかったが、 貴族のために行われたのであり、 一八四六年に

性を特徴づけた農業における生産関係はどのようであったろうか。なければならなかった」(8.22)。それならば、ドイツ資本主義の後進労働者としてひきいれ、もしくは手工業者を従属的な関係に強制し品生産の発展のために、封建的な隷属のもとにあった農民を、家内その上一八四八年以前に完成されなかったので、ドイツ商人は、商

七年十月九日、勅令によって世襲隷農制を廃止した。しかしそれは、た。このような外からの条件におされて、プロシャ政府は、一八〇 義的生産力の発展をはばむ封建的桎梏からの解放が叫ばれるに至っ 農民が人格的自由を獲得するのを規定しても、彼等の政治的権利の という「真に革命的な途」を たどるのでは なく、「直接生産者たち 規則から解放された資本主義的な基礎のうえに、生産を組織する」 ィヒテなどの進歩的な人々の運動がたくましくつづけられ、資本主 フンボルト兄弟をはじめ、ハルデンベルク、グナイゼナウそしてフ ンフトの解体が急速に進行していった。さきにのべたシュタインや は打ち破られ、新しい自由の風がふきまくって、農奴隷の廃止とツ の運命に大きな転換をもたらした。プロイセンの封建的反動的体制 ス軍がドイツに侵入して、プロイセン領を占領したことは、ドイツ なわち、一八〇五年から一八〇七年にかけて、ナポレオンのフラン を取得する」といういわゆる「プロシャ型」を形づくっていた。す の状態を悪化させ……旧来の生産様式の基礎の上で彼等の剰余労働 本を蓄積し、商業を営み、ときがたつにつれて、ギルドの手工業的 ドイツにおける資本主義の発展は、「生産者の一部がみずから資

> をころがなかった。 地所有者になろうとする場合、永代賃借人は耕地の半分を手放さなければならなかった。進歩的な政治家シュタインが追放されたのち、ところがなかった。進歩的な政治家シュタインが追放されたのち、ところがなかった。進歩的な政治家シュタインが追放されたのち、進得や物質的保障、とくに土地所有の問題については、何らふれる

一八四八年のドイツ三月革命がおこらざるをえない理由があった。 らの改革」としておしすすめられた「農奴解放」は、資本主義的生 られたけれども、封建的ユンカーは依然として政治の実権を握る者 られたけれども、封建的ユンカーは依然として政治の実権を握る者 であり、農業プロレタリアがつくりだされたとはいえ、それは資本主 義的ユンカー経営に吸収されるべきものとなった。このようにして、 力型の光を恐れた経済革命であり、政治革命という清めの恩寵のな の移行が、クチンスキーの「言葉をかりるならば、「政治という太陽の のとに、「上か

- (-) Werner Sombart; Die deutsche Volkswirtschaft in neunzehenten Jahrhundert, 1909.
- (a) Friedrich Engels; Revolution und Konterrevolution.

六五 (五二五)

邦訳マルクス・エンゲルス選集(大月版)第四巻二二頁。

- (の) Jürgen Kuczynski; Die Bewegung der deutschen Wirtschaft Von 1800 bis 1946, 1948. 高橋正雄・中内通明駅「ドイツ経済史」五三頁。
- 道家忠道・成瀬治共訳「ドイツ――歴史の反省」七八頁。(4) Alexander Abusch; Der Irrweg einer Nation, 1951.
- (5) エンゲルス「革命と反革命」九―一〇頁。
- (6) Karl Marx; Das Kapital, Bd. 3. 高畠訳(三ノ上)
- (7) クチンスキー、前掲書、邦訳三四頁。
- (8) 右揭書、三五頁。
- 9) 右掲書、四四一四五頁。

Ξ

ればならない。

でともいうべき十九世紀初頭のドイツ社会運動について概観しなけな役割を果したか、この点についてふれる前に、われわれはその前れはどのような経過をたどったか、とりわけ労働者階級がどのようにして勃発したか、そしてそ

はきわめて弱く、封建的大土地所有者としての 貴族(Junker)をてイギリスより半世紀もおくれたドイツでは、ブルジョア階級の力封建的な桎梏にわざわいされ、資本主義国としての出発点におい

けて、すでに産業革命がおこって、新しい権力の担い手としてブルジ られていたため、イギリスには十八世紀後半から十九世紀初頭にか 頂点として、その藩屛としての牢固たる官僚組織と軍隊とにささえ のをさまたげたのであった。かくしてドイツにおいては、十九世紀 **沓的発展の停滞に苦悩しなければならなかった。すなわちドイツに** 典的な音楽芸術とはまったく対照的に、ドイツの市民階級はその経 ら生れた」と叫ばしめたゲーテ、シラーおよびレッシングの情熱的 る絢爛たるドイツ狸想主義の哲学、そして「自由はゲルマンの森か できた。カント、フィヒテ、シェーリングそしてヘーゲルとつらな 同時に、階級意識に目覚めた近代的なプロレタリアートを創出する 的大土地所有者たるユンカーの下僕としての地位に甘んぜしめると おける資本主義的発展のたちおくれは、ブルジョアジーをして封建 な詩や文学、そしてバッハやベートーヴェンによって代表される古 つあったのに反し、ドイツ絶対主義政権は安逸の眠りを貪ることが をおびていたことはやむをえなかった。ウィルヘルム・ワイトリ 工階級によってしめられ、しかも彼等は、イギリスにおけるような に至るもなお勤労大衆の多くはプロレタリアートであるよりは小商 ョアジーが自己のイデオロギーをひっさげて歴史の舞台に登場しつ グの社会主義はこのような十九世紀初頭のドイツの経済社会を反映 産業資本家に雇用される近代的なプロレタリアートではなかった。 従って十九世紀初頭におけるドイツの社会運動が、近代的なプロ トの運動というよりは、 いちじるしく手工業者的な色彩

になってようやく労働運動と社会主義とを結びつけたのだが、ワイ ラン、プルードン等の一連の社会主義者は、それぞれ一八四〇年代 のドイツ支部となった。彼らはバブーフの共産主義にもとづき、私 rechten)が生まれた。これは急速に発展し、一八三九年までにブラ っきりと把握していたといわれる (SS. 50-51)。カベー、ルイ・ブ はあったが、サン・シモンやフーリエとはちがって階級的立場をは うけたといわれる。彼はドイツにおける最初の空想的社会主義者で 有財産の廃止をとなえていたが、ワイトリングもバブーフの影響を ンキ等の影響をうけた秘密団体、四季協会 (Société des Saisons) ツ追放者同盟(Deutsches Bund des Geächteten) がつくられ それであった。当時のドイツは、フランス革命の思想に影響せられ、いていくことのなかった。ワイトリングの如き空想的社会主義者がすなわち、 た彼等は、その巡業の途中で社会主義思想の洗礼をうけたことも珍 間を終えたのち、ドイツ国内はもちろん遠くスイスやフランスまで 徒弟制度によって、年若い徒弟は親方になるためには一定の修業期 のこのツンフト制度は、ドイツの産業的発展を阻害し、また厳重な 工業は中世的なツンフトの統制下にあったが、中世的な遺物として ンスを中心にして行われていた。すなわち一八三三年、パリにドイ また反動的なプロシャ政府に弾圧されたため、社会主義運動はフラ じくなかっ も遍歴することを強制されたのであった。親方になる望みの薄かっ 一八三六年にはその分枝として正義者同盟 (Bund der Ge あくまでもドイツ的であったといえよう。すなわち都市の手

は然としてバブーフの平等思想であり、またキリスト教の影響とりた。「人類の正式がある。彼の社会主義思想の提展に流れていた。「人類の現実と理想」(Die Menschheit, wie sie ist und sie sein sollte, und Freiheit, 1841)の二著において、彼は自己の社会主義思想をいかった点にある。彼の社会主義思想の空想的性格は、近代的なプロレタリアートをもって革命の担い手たることを洞察することができなかった点にある。彼の社会主義思想の根底に流れていたものは、依然としてバブーフの平等思想であり、またキリスト教の影響とりわけ福音主義的な傾向が見られた。結局彼は、手工業プロレタリアわけ福音主義的な傾向が見られた。結局彼は、手工業プロレタリアとして、ユートピアン社会主義とプロレタリア社会主義との中間的として、ユートピアン社会主義とプロレタリア社会主義との中間的として、ユートピアン社会主義とプロレタリア社会主義との中間的として、ユートピアン社会主義とプロレタリア社会主義との中間的として、ユートピアン社会主義とプロレタリア社会主義との中間的として、ユートピアン社会主義とプロレタリア社会主義との中間的として、ユートピアン社会主義とプロレタリア社会主義者の前に膝を屈したつきながら、去ってフランスの空想的社会主義者の前に膝を屈したともいえよう。

主義が、ワイトリングやプルードン等の空想的社会主義を圧倒したて自由主義的なブルジョアジーと、他方において手工業労働者によって建設されたスイスおよび労働者の啓蒙的な団体、労働者教育協会(Arbeiterbildungsverein)にも影響を及ぼした。やがて、各点の会合によって共産主義同盟(Das Bund der Kommunisten)が建設され、これによってマルクスおよびエンゲルスの科学的社会が建設され、これによってマルクスおよびエンゲルスの科学的社会によって会話によって大会が開始会によって表示である。

かったため、次第に科学的社会主義にとって代られるに至った。 があったが、彼等は、マルクスと同じくヘーゲル左派に属し、空想代表される真正社会主義(der Wahre Sozialismus)という一派代表される真正社会主義(der Wahre Sozialismus)という一派のである。当時のドイツにはワイトリングの空想的社会主義、マルのである。当時のドイツにはワイトリングの空想的社会主義、マル

(Gegenseitigen Hilfs-und Bildungs-verein)が発展していた。 (Gegenseitigen Hilfs-und Bildungs-verein)が発展していた。 かコバン主義的な脅威となることをおそれた多くのブルジョアジーは、労働者の加入をさまたげ、その会員をできるだけ少なくするたは、労働者の加入をさまたげ、その会員をできるだけ少なくするために、会費年額一○グロッシェン以下の場合は、その設立を認めなめに、会費年額一○グロッシェン以下の場合は、その設立を認めないことを公言した。

このような労働者の組織はマグデブルグ、オルデンブルグ、ライプ 師六、鏡前師一七、印刷工五その他であった。翌一八四六年には、 **具師一九七、左官一四、裁縫工三二、大工九、旋盤工二二、金細工** 果、会員のうち手工業職人(Hand-werksgesellen)のしめる比率 義者同盟のための下部組織となったのであるが、個々の組織自体の 会(Handwerkerverein)を例にとると、会員のうち親方と職人と 育協会(Bildungs-vereif)は、四五二人の会員を擁しており、 る。だが家内工業の没落と手工業労働者の低下する生活水準の結 そもそもの目的は、会員相互の教養をたかめることにあったのであ の比率はつぎの表の通りであった(数字は K. Obermann; ツィヒ、マンハイムなどに生れたが、マグデブルグの手工業労働者協 の加入者の職別の主なものはつぎのとおりであった。すなわち、家 てこの種の運動が見られたが、一八四五年、ハンブルグの労働者教 が次第に多くなっていった。すでに一八四〇年にはベルリンにおい これらがやがて、さきにのべた国際的な結びつきを有する共産主 そ

による)。

| # | HO [| △ | 六九 | | 比人方 率とと | の職親 |
|---------|--------|--------|---------|--------|------------|-----|
| 大・四七 | 一九、五六六 | 一五、七九九 | 九、四四二 | 三、八七 | 計 | 合 |
| | 元、 | 1五、六〇六 | 九、三〇八 | 444,11 | 人 | 職 |
| 五〇八五 | 一公 | 一些 | 1111111 | 100 | 方 | 親 |
| までの増加率 | 八四七年 | 一八哭年 | 八豎年 | 一八器年 | /年 | 会/ |

Lesner)などの労働運動の指導者が現われたのである。

「Co表によって明らかなように、会員全体の数は、この四年間に
この表によって明らかなように、会員全体の数は、この四年間に
「Esper」などの労働運動の指導者が現われたのである。

て勃発したのであった。革命の進展とともに各階級の利害の対立はは、労働者階級や小ブルジョアおよび開明的なブルジョア革命としは、労働者階級や小ブルジョアおよび開明的なブルジョアシーある主義が登場するのであるが、一八四八年のドイツ三月革命そのもの主義が登場するのであるが、一八四八年のドイツ三月革命そのもの主義が登場するのであるが、一八四八年のドイツ三月革命そのもの主義が登場するのようにして社会主義運動は、空想的な要素をおびながらも労

に考察することとしよう。 とのようにあらわれてゆくか、革命の成果を擁護しようとする側と、どのようにあらわれてゆくか、革命の成果を擁護しようとする側と、どのようにあらわれてゆくか、革命の成果を擁護しようとする側と、どのようにあらわれてゆくか、革命の成果を擁護しようとする側と、どのようにあらわれてゆくか、革命の成果を擁護しようとする側と、

(一) Franz Mehring; Karl Marx, Geschichte seines Lebens, 1933. 栗原佑訳第一巻一五六—一五七頁。

上にでなかったといわれる。評価されていたにもかかわらず、結局、ドイッの手工業職人以ワイトリングはブルードンとともに、最初はマルクスに高く

四

貴族およびドイツ連邦議会との協定の途上において、出版及び集会教いようのないプロシャの制度に絶望し、何よりもドイツの統一と、ってよいであろう」。エンゲルスがのべているように、一八四〇年代生残者であったプロシャの先代の国王が死んだときにはじまるとい生残者であったプロシャの先代の国王が死んだときにはじまるとい生残者であったプロシャの先代の国王が死んだときにはじまるといいが、

イツ三月革命における労働者階級の役割

六九 (五二九)

フランス革命の影響のもとに、主としてライン州に誕生した独立の び中農(Gross und Mittel Bauern)と呼ばれる階層、つぎに、 農業労働者を雇用する比較的富裕な農業経営者、 大部分は手工業労働者であって、ツンフト的な支配のもとにあり、 小自由農があったが、彼等は封建的負担を金で買ったため、 徒弟と職人、職人と親方との関係は、身分的な制度によって拘束さ 工場に雇われていた少数の工業労働者を別とすれば、労働者階級の たが、その数は比較的少なかった。国職人および徒弟――近代的な織物工場、あるいははじまったばかりの金属工業などに雇われてい 多く住んでいた。何工業プロレタリアート――近代的な紡績工場やロレタリアートとの間に介在する独立自営の手工業者や小商人が数 王を中心とする特権的な大地主および封建貴族、白新興階級として当時のプロシャの状態を階級関係をもってあらわすならば、台国 級としての中小商工業者-に重要な役割を演じた階級であった。ドイツは資本主義的発展がお の産業ブルジョアジー を望んだけれども、革命を望んでいたのではなかった(SS:86-87)。 くれていた結果、都市にはブルジョアジーと工業労働者、すなわちプ の自由を得ることを期待した。しかし彼等は、漸進的な合法的な発展 この階級は複雑である。エンゲルスによれば第一に幾人かの 封建遺制を耐えがたい桎梏と感じていた。自中間階 彼等は封建勢力に対決する力をもたなか -彼等は革命的な闘争にあたって決定的 すなわち大農およ ー近代的な

> 結ばず、家を借りて住んでいたため、生きるために何らかの仕事を 領主にたいして契約的な雇用関係にあり、その仕事は、領主の家屋 Heuerlinge)、彼等は、家も土地ももたず、また一定の雇用関係も 敷および耕地に限られ、彼等の身分そのものは多かれ少なかれそれ さがさなければならなかった。 一定の賃金をえていた。®小屋住みおよび日雇い〈Einlieger und また複雑な構成をなしていた。オーベルマンによれば、A召使およ に結びつけられていた。その代り彼等は小さな庭のある住居をもち、 び雇人 (Dienstleute oder Feldgesinde)、彼等は土地をもたず、 はたさなければならなかった。最後に農業労働者がいたが、これは は名ばかりで高利貸の搾取に苦悶していた。第三に封建的小作人で あるが、彼等は領主の土地を耕すかわりに、代々、一定量の労役を

8.28 に掲げられたもの)。 労働者階級の構成を表にあらわしてみよう(数字は、Obermann; オーベルマンの説を参照しつつ要約したものであるが、革命以前の 以上は、一八四八年のドイツにおける階級関係を、エンゲルスと

工場労働者の比率が少なかったということが、 農業労働者の数に比べるならば、ほとんどその三分の一であり、 間において、工場労働者の数は飛躍的に増大しつつあったとはいえ、 た「ゲジンデ」と呼ばれた召使もしくは雇人がかなりの数を占めて いたことは注目されなければならない。労働者階級のうちに占める 次の表から明らかな如く、一八一六年から一八四六までの三〇年 やがてこのブルジョ

点火されるのであるが、その前兆は、すでに早くからおこっていた。 さて革命のそもそもの発端は、フランスの二月革命の影響によって ア革命を不徹底に終らせるに至った大きな原因のひとつでもある。

| 増 ポ 中 中 ボ ボ ル ま の 八 大 の 四 で の 四 の の の の の の の の の の の の の | 一八四六年 | 一八一六年 | 年度 類 類 類 |
|---|-------------------|-------------------|--|
| 右パーセント | 1 | | 農業における 賃金労働者 Tagelöhner auf dem Lande |
| パーセント | 150、041 150、048 | 八八〇、四〇1 1、〇八二、五九八 | 召 使 Gesinde |
| 九三・0回 パーセント | 五五三、元四二 | 17,5,7,11 | 工場労働者 Fabrik und Manu- faktur arbeiter |
| パーラント | 三七九、三一四 | 1.七九、0110 | 手工業の見習 Werksgehil- fen und Lehrlinge |

に窮迫し、社会主義と共産主義の学説のなかに自己の解放を求めて 働者階級はひどい低賃金と劣悪な労働条件によってその生活は極度 **業ブルジョアジー、商人、中小工業者など** 要求していた。すなわち封建的大地主を除く富裕な市民階級 するために必要な新しい憲法の制定、出版の自由、陪審裁判などを ブルジョア階級は、政権を掌中におさめ、自己の政治的支配を確立 従って近代的な議会制度を熱烈に欲求していた。また一方労 は、何よりも新しい

び小ブルジョア階級と労働者階級の共同の闘争としてはじまった。 従って革命の第一段階はまず封建的な勢力に対するブルジョア及

イツ三月革命における労働者階級の役割

戟されて起ち上った。三月十三日、ウィーンに暴動がおこったが、 革命的勢力として登場し、ルイ・フィリップを追放してフランス共 隊にたいする抵抗のはげしさ、プロレタリアートの革命的な意識の 首都にも多かれ少なかれ暴力的な性質の動乱がおこったのを目のあ 和国を成立させるのに偉大な役割を果したという事実、しかもそれ **昻揚に恐怖心をいだいた。パリの二月革命において、労働者階級が** ブルジョアジーは革命の目的が終ったものと考え、むしろ大衆の軍 やがてベルリンに波及し、軍隊との間に市街戦が行われた。狼狽し また勤労階級は一八四七年の恐慌の結果とフランスの二月革命に刺 ブルジョアジーは封建的諸制度の圧迫にたいする憎悪と反感から、 た国王は、選挙権や出版および集会の自由について譲歩したので、 閣をひきうけたことによって、第一段階は、ブルジョア階級と封建 面がくりかえされる危険がさしせまっていた。以前の意見の不一致 のきえやらぬうちにむすばれた。カンプハウゼンとハンゼマンが紙 度の支持者たちとのこの同盟は、ベルリンのバリケードからまだ煙 なに一つ提出していなかったにもかかわらず、この労働者に対抗し はいっさい消滅し、勝利した労働者はまだ彼等自身の独自の要求を に刺戟されて、ウィーンに暴動がおこり、さらにドイツの諸小国の 的勢力との妥協苟合をもって終りをつげた。 て多年の敵味方が連合した。そしてブルジョアジーと転覆された制 たり見たとき、ブルジョア階階にとっては、パリの『無政府』の場

これについてオーベルマンは、「ドイツ三月革命の 闘争に おける

冷淡さがうまれた」。このように革命を 左右する上で 大きな力とな 需要が止ったことは商工業者にたいして大きな痛手とじて作用し、 階級であった。 des Volkes")であり、無教育の国民を代表するのだという自負心 ったのは、第一段階としての三月一八日の革命においては、 ルジョアジーとの利害の対立をおそれるとともに、プロレタリアー 等は国民のもっとも不安定な階層(,,der unsicherte Bestandteil 闘争のなかにおいてであって、革命全体を動かすほどの勢力であっ 「一方の市民階級とさわぎずきの学生ならびに労働者との間にある していたため、革命の勃発によって貴族階級が逃亡した結果、その と、所有関係の変動にたいする極度の警戒心とを抱き(S. 134)、ブ てしめられていたからである。すなわち、小市民階級の数が多く、彼 に、ドイツの労働者階級は前近代的な意識をもつ手工業職人によっ たということではないと考えられよう。何故なら、前節でみたよう 定的な力」,die entscheidende Kraft" というのは、革命的な た。それゆえに小市民階級(Kleinburger)との共同闘争を必要と 決定的な力は労働者階級であった。しかし彼等は、充分に発達して いなかったし、革命の指導権を握るほど充分に組織されていなかっ しようとした」とのべている (SS: 129-130)。しかし、ここで「決 したのである。一方小市民階級は、労働者階級の革命的な力を利用 を猜疑し、その革命的な力を恐怖した。たとえば一大消費都市 ィーンにおいては、製造工業は貴族階級や宮廷の消費をめあてに

「封建勢力とブルジョア階級との妥協、小ブルジョアの労働者階級への猜疑と利害の対立は、プロレタリアートを絶望と憤懣におとしいれ、さらに革命を第二段階へ発展せしめた。一八四七年の恐慌によって低賃金と失業にさらされた労働者は、普通選挙権を要求し、よって低賃金と失業にさらされた労働者は、普通選挙権を要求し、た。そして同じ晩、この革命的な状勢を憂慮した開明的なブルジョアジーは、労働者階級の不満を和らげその抵抗を弱めるために、革アジーは、労働者階級は、三月二六日、一〇〇小ら二〇、○○人の労働者が賃金値上げを要求して抗議大会を行い、支配階級を文字通り震撼した。プロレタリアートはいまや革命の主なる担いを文字通り震撼した。プロレタリアートはいまや革命の主なる担いを文字通り震撼した。プロレタリアートはいまや革命の主なる担いを文字通り震撼した。プロレタリアートはいまや革命の主なる担いを文字通り震撼した。プロレタリアートはいまや革命の主なる担いを文字通り震撼した。プロレタリアートを絶望と憤懣におとしたのである。かくして三月二六日以後革命は第三段階に入るために立てていません。

が、その重要なものをあげるとつぎのようなものがあった。 しく登場するようになる。一八四八年の終り、マルクスおよびエンゲルスは、共産主義同盟本部の名のもとに、有名な「ドイツにおけるルスは、共産主義同盟本部の名のもとに、有名な「ドイツにおける」との時期以後、ドイツの労働者階級は革命の担い手としてたくま

台 全ドイツを単一不可分の共和国と宣言すべきこと。

- 挙権ならびに被選挙権をもつ。 □ 刑罰をうけたことのない二一歳以上のドイツ人は、すべて選
- 議席をもちうること。 国民代表には給料を支払い、労働者もまたドイツ国民議会に
- | 全国民の武装。
- 囲 裁判は無料とする。
- の賠償なしに廃止する。担、すなわちいっさいの賦課、賦役、十分の一税等は、なんらめ、 これまで 農民住民の 重荷になっていた いっさいの 封建的負

国民教育の無料実施や国営工場の建設などを要求している。相続権の制限や消費税の撤廃および高度の累進税の実施、あるいは路、郵便等の国有化を主張し、また教会の国家からの完全な分離、よびエンゲルスは、銀行の国有化をはじめ、鉄道、運河、汽船、道最初の七項目だけあげたが、それ以下の項目においてマルクスお

して迎えたかといえば、封建的な体制に緊縛されていた農民および益であることを強調しているが、プロレタリアートはこれをいかにそ、ドイツのプロレタリアートと小ブルジョア階級および農民の利およびエンゲルスはこれらの諸政策の貫徹に全力をつくす こと ここれは共産党宣言の理論を一層発展させたものであり、マルクス

農業プロレタリアー 運動を経済的な要求のなかにとどめておこうとする経済主義や労資 働者の数は農業労働者に比較してはるかに少なく、 産業プロレタリアートとの間には、大きな隔絶が見られたことであ もなく、とりわけ労働条件の改善や政治的な権利獲得のために闘う 順序であるが、これについてふれる余裕がないので、最後にこの革命 選挙権闘争において、労働者階級の果した役割についてふれるのが 勢に転じた。われわれはつぎに三月革命の終幕ともいうべき民主的 え、結局は社会改良主義者であり、小市民的手工業者的イデオロギ テファン・ボルンの如きも、空想的社会主義者ではなかったとはい はバブーフの 影響をうけた 小ブルジョア 的空想的 社会主義者であ 働者階級を支配する結果となった。シュレフェル (G. A. Schlöffel) 協調主義が浸透し、その反対に空想的な思想や手工業的な理論が労 主義と並んでそれを否定するかのような日和見主義例えば労働者の の伝播を阻害したことが考えられよう。その結果、革命的なマルクス 者のしめる比重がきわめて大きかったことが、革命的イデオロギ ろう (SS: 159-160)。さきの表においてみた如く、 とができなかった。すなわち、一八四八年十二月、反革命陣営は攻 ツ革命は第三段階に入って労働者階級の革命的なエネルギーを期待 したにもかかわらず、これをもってブルジョア革命を徹底させるこ ーを清算するまでには至らなかった(SS, 171-179)。その結果ド また黎明期のドイツ労働組合運動に指導的な役割を果したシ トは、他の社会階層との間にほとんど何の関係 また中小商工業 ドイツの工業労

ドイツ三月革命における労働者階級の役割

が、一九〇五年のロシャ革命よりも、はっきりとあらわれなかった」 経済的にも政治的な点でもおくれていた う。「ドイツの民主主義革命においては(一八四八年当時において)、 術」の結語につぎのようにのべているのはまことに 教訓的 で あろ 重大な要素はこれである。この意味で、 級の裏切りを説くだけでは充分ではない。この二大階級の間にあっ 産者および農民をいかに把握するか。結局、革命の帰趨を決定する て浮動する小ブルジョア階級の役割と前近代的意識に眠る独立小生 が、封建的貴族階級と妥協した大ブルジョアの裏切りであることは 切ることができた」と(S. 332)。 まことに ドイツ三月革命の失敗 らゆる闘争の前面に立って、一貫して民主主義のために闘った。し 点についてオーベルマンの主張を要約して本稿を終りたいと思う。 かしながらその力は、農民や小市民を指導するのに充分ではなかっ が、労働者階級の運動にたいしどのような意義をもっているか、この いうまでもないが、それよりも、前近代的な意識をもつ広汎な中間層 そして再びオーベルマンは つぎのようにいう。「ドイツの プロ **「ドイツのプロレタリアー** ために、 運動の プロレタリア的特徴、 プロレタリア 的な潮流 従ってドイツのブルジョアジーは、反革命によって革命を裹 トは、一八四八年から一八四九年のあ レーニンがその「二つの戦 国家的な分裂によって

レタリアートは、農民および民主的な小市民と同盟して、国民運動の指導権をうけつぐことができるために、自主独立の労働者党をつくり出さなければならなかった……。自主的な労働者党の建設をめた、労働者の戦列における小市民的なイデオロギーに聞いをいどみこめに、労働者の戦列における小市民的なイデオロギーに聞いをいどみこれながら、同時に小ブルジョア的なイデオロギーに聞いをいどみこれを克服すること、オーベルマンによればこれこそ一八四八年の革命において、あたえられた困難な状勢のなかで、この教訓がかえりみられなかったことがあろうか。

- (1) エンゲルス「革命と反革命」邦訳二八―二九頁
- (2) 右掲書、五九頁。
- (3) 右揭書、五四頁。
- 四五八―九頁。 四五八―九頁。

できなかった。その徹底的な兜明については、後の機会にゆずる。≫ようとした筆者は、準備不足のため所期の目的の半分も果すことが≪オーベルマンの 著書を通じて、ドイツ三月革命の 全貌を把握し

J・L・シュミットの恐慌理論

-戦後景気循環の体系的研究の一齣-

常

治

 \subseteq

第二次世界大戦後の資本主義の発展と景気循環の特殊性について「経済の軍事化」を骨格として説明しようとする教条主義的見解に対する批判として、アーノルド・バーマンの劃期的労作が発表されわれてきたことは周知の如くである。わが国においても、名和統一われてきたことは周知の如くである。わが国においても、名和統一氏によって「大胆な問題提起」がなされ、戦後景気循環の特殊性について氏によって「大胆な問題提起」がなされ、戦後景気循環の特殊性について残する問題は「資本主義の運命を決する鍵」として最近特に論議の関する問題は「資本主義の運命を決する鍵」として最近特に論議の対象となった。

ややもすれば教条主義的論旨を再強調するにすぎないか、せいぜい、ている。さりとて、これを批判する側も、必ずしも体糸的でなく、つも、完全には同意できないことが多くの論者によって表明せられたかんする教条主義的偏向についての批判としては高く評価されつバーマン=名和論文は、戦後資本主義の発展と景気循環の特殊性バーマン=名和論文は、戦後資本主義の発展と景気循環の特殊性

いる」と言っていい。

いる」と言っていい。

がして、従来多くの労作がとりあげてはいるが、「それら諸要因について、従来多くの労作がとりあげてはいるが、「それら諸要因について、従来多くの労作がとりあげてはいるが、「それら諸要因について、従来多くの労作がとりあげてはいるにがしているにの変形を規定した「特殊な諸要因」の皮相的羅列を非としているにいる」と言っていい。

そこで、かかる「広大な課題を実現するためのさざやかな寄与を Krisentheorie", Akademie-Verlag, Berlin 1956. を発表した Krisentheorie", Akademie-Verlag, Berlin 1956. を発表した Johann Lorenz Schmidt が、最近その具体化の一齣として,, Über die besonderen Factoren der zyklischen Entwicklung im Kapitalismus nach dem zweiten Weltkrieg (Konjunktur und Krise, Akademie-Verlag, Berlin Heft 1. 1957, SS. 3-24.) なる一論を草しているので、ここに訳出紹介して、戦後景気循環の体なる一論を草しているので、ここに訳出紹介して、戦後景気循環の体系的研究のための一資料に供したいと思う。なお、J・L・Schmidt

七五(五三五)

J・L・シュミットの恐慌理論